

今回の予算編成に関する質疑

① 予算編成と総合計画との整合性

問 総合計画は市長が代わったら変わるのか。

答 総務部長 10年間は不変である。

問 市長は財政状況や総合計画をどのように認識し、予算編成をしたか。

答 市長 財政調整基金を減らしたくない思いから、削減した。

問 訂正予算は議会の反発によってか、市長自らの間違いによるものか。

答 市民・議会の声も聞かず、自分の判断で間違った予算計上をした。

問 各課が要望した予算がなぜ当初予算に反映されなかったのか。

答 開発部長 削減されたことに、強く要求できなかったことを反省している。

答 副市長 財政状況

を見て調整を行った。総合計画と整合性が取れないことは強く進言した。

問 JR・名鉄弥富駅橋上駅舎化事業の予算が計上されていないが、この事業を白紙にするということか。

答 市長 重要施策であるが、30〜40億円かかるということなので、延期という気持ちでいた。

問 予算の訂正に至った経緯は。

答 副市長 市営火葬場建設事業において、合併推進債を利用するには今しかない。JR・名鉄弥富駅橋上駅舎化事業は、ようやく鉄道事業者と協議の場を持つことができる状況になった。今、断念すれば二度と協議ができなくなる。

総合計画に上がっている事業であり、訂正予算

を出すしかない」と強く進言した。

議会においてはこれを議題として取り上げ、本来あるべき予算の形となったことに感謝している。

② 扶助費の減

問 財政調整基金の繰り入れが6千万円ほどしかなく削減された民生費・教育費などの扶助費に関する部分が大きく削減されている。扶助費は削れないはずだが、補正ありきの予算ではないか。

答 総務部長 財政調整基金をできるだけ確保したいの思いから、余裕のない予算組みをしたので、大幅な訂正となった。

結果として、財政調整基金の繰り入れは約4億2千万円となり、例年通りの繰り入れとなった。

問 保育所・学校修繕工事費が少ないが、安全は確保されているか。

答 児童課長・学校教育課長 危険を伴うものを優先し、先送りできるものは見送った。

一方で、老朽化も著しいので、訂正予算で増額した。

問 今回の予算についての思いは。

答 民生部長 歳入にあつた歳出削減をするという基本姿勢に基づくと削減幅が大きくなった。まず工事費を徹底的に削減し、次に義務的経費の見直しに着手した。

義務的経費は、制度を改正しない限り、削減できるものではないので、補正予算の想定をもって承諾し、当初予算を計上してしまった。

答 教育部長 工事費など削減する中で、手を付けてはいけない部分も手を付けてしまった。補正ありきで計上した。

③ 市長と職員の連携

問 予算編成の流れは。

答 総務部長 前年10月、市長の編成方針に基づき各課に通知。前年実績などから新年度予測を考慮し積算。その後の査定は担当部長、財政課で正誤確認後、総務部長、市長・副市長の査定となる。

問 訂正前の予算案について議決されると思っていたのか。

答 総務部長 最後の段階で無理な削減もあり厳しいと思ったが、財政が厳しいのも事実。

答 開発部長 削減した部分も必要なら補正をと考えていた。

問 市長と担当部局の責任者とは連携は取れているのか。

答 開発部長 過程において意思の疎通、情報の共有ができていたのか検証が必要である。

答 市長 連携が不十分だった。大いに反省している。

事業費の削減に対して、幹部職員から市長へどのような説明をしたか。

答 副市長 事業の必要性を強く説明したが、市長の意志を変えることができなかった。もっと強く言っておけばと反省している。

問 31年度一般会計予算の訂正の件が新聞で報じられたが、市民の不安に応える対応を指示しているか。

答 総務部長 市役所に訪れた市民に対して安心してもらえよう対応を指示する。

問 このような事態に至った最終的な責任は誰にあるのか。

答 市長 全て私の責任。